

公益財団法人 沖縄県医科学研究財団

概 要

当財団は、昭和 60 年 12 月 10 日に沖縄県教育委員会の許可を受けて「財団法人沖縄県疾病研究財団」として設立され、平成 7 年に「財団法人沖縄県医科学研究財団」と名称を変更し、平成 23 年 3 月 25 日公益財団法人として移行登記を行い、「公益財団法人沖縄県医科学研究財団」として今日に至っております。

当財団の設立は故白石武八郎氏が一患者として国内を転々と受療された後、沖縄県における医療の遅れを身をもって感得され、県内専門医療の確立を願われ琉球大学医学部設立の後援に晩年を捧げつつ亡くなられたことを受け、氏の御遺族が長年氏の診療にあたった故大澤炯教授に御芳志を託され、医科学研究促進のため財団設立となりました。

その目的とする所は、わが県に特有の病気等、地域のための医学、医療に関する研究調査活動を助成振興して、県民の健康増進を促進することにあります。当財団は、その目的を達成するために次の事業を行っています。

- (1) 沖縄の地域特性を持つ医学関連科学に関する研究の助成及び表彰
- (2) 沖縄県内で実施される医科学関連の学会、研究会、研究集会、研究機関などに対する寄附助成に関する事業
- (3) 沖縄の地域特性を持つ医学関連科学についての知識の普及及び啓発
- (4) その他、目的を達成するために必要な事業

当財団の活動の甲斐あって、沖縄に欠如していた腎移植のシステムも、最近では、全国に誇れる程の組織と臨床成果をあげつつあります。しかし、日本一の高率で発生する肺癌、成人白血病、尿路結石、交通外傷、ウイルス疾患、寄生虫など、本土他府県と異なった対応を要するものが、すくなく存在し、解決が待たれています。

当財団ではこのような沖縄に重要な医学分野で研究に携わっている若手研究者 107 名に対し研究助成、特定分野での研究成果をあげた 92 名に対し研究奨励賞、沖縄の医療において大きな貢献をされた 49 名に功労賞を授与し、医療関係の公開講座などを通して、沖縄県民の健康増進のため大きな成果をあげております。

このような活動も御寄附をして頂いた方々、また当財団の趣旨に御賛同下さり、維持会員や賛助会員となって頂いた方々の御支援により支えられております。

事業概要

本財団は、沖縄県において地域的に重要な医科学分野の研究を促進し、又これらの知識を普及することをもって、県民の健康と福祉の向上を目的に下記の3つの事業を行っております。

1. 沖縄の地域特性を持つ医学関連科学に関する研究の助成及び表彰事業

・功 労 賞

沖縄の医学、医療に大いなる貢献があった方に贈られる賞

・研究奨励賞

沖縄県に関連の深い研究や、貢献を行っており、特定分野の研究で学会に知られ、且つその将来の発展が予見される第一線の研究者に贈られる賞

・研究助成

沖縄特有の疾患や県民が頻繁にさらされる疾病を中心とした卒後10年程度の若手研究者の研究課題に対する助成

・特別若手研究助成

研究助成対象研究として適格であるが、定員外となった者に対する助成

・最新医療技術の調査研修への助成

専門分野において新しい医療技術を取り入れるため、国外（県外）での調査研修に対する助成（平成12年度～平成17年度まで）

・沖縄アジア諸国の共同研究と交流への助成

沖縄とアジア諸国との医学関連分野での共同研究及び交流への助成
（平成18年度～平成20年度まで）

2. 沖縄県内で実施される医科学関連の学会、研究集会、研究機関等に対する助成事業

・医科学関連の学会、学術集会への助成

沖縄県内にて開催される医科学関連の学会、学術集会への支援のための助成

・医科学関連の研究組織、機関への助成

地域医療の充実や医科学関連の人材育成、医学に関する臨床研究事業等を行っている研究組織や研究機関への助成

3. 沖縄の地域特性を持つ医学関連科学についての知識の普及及び啓発事業

・市民公開講座の開催

医療と医学知識の普及、健康増進の啓発活動として公開講座を開催している。

平成12年度には財団設立15周年記念事業として「健康と福祉の講演会」を開催した。平成17年度より「沖縄の長寿を楽しもう！」をテーマに公開講座を毎年開催。平成27年度より「最新医療はここまできている」をテーマに公開講座を開催し最新の医療知識の普及を行っている。

・市民公開講座への助成

健康に関する知識を普及する目的で、不特定多数の一般住民に対し公開講座を開催する団体への助成

1. 研究奨励及び助成事業

功 勞 賞

昭和61年度

氏 名	受 賞 理 由
大 鶴 正 満	沖縄の寄生虫病撲滅に功績を残された。亜熱帯環境下医学教育とその研究基盤の整備に取り組み、沖縄県における史上初の医学部設立の業務を随行し、医学科保健学科大学院を発足せしめられた。
ニール・エルゴウルト・ジュニア	沖縄県における卒後臨床研修事業の基盤を県立中部病院にて確立されその結果、多くの臨床医の養成を通じ沖縄の医療に貢献された。
小 張 一 峰	沖縄県における史上初の医学部設立に当り、初代琉球大学医学部附属病院長を引き受けられ専門医療の乏しい中で、新病院の建設、卒後教育及び大学病院としての医療の確立等に努められた。

昭和62年度

氏 名	受 賞 理 由
稲 福 全 志	沖縄医学史の研究（故 金城清松氏につぐ）を極め沖縄県の医史学を確立された。また、8年間に亘り県医師会会長として県内医療の向上発展に努められた。
古 波 倉 正 照	開業の傍ら、14年に亘り県医師会医学会会長として県内医療水準の向上に当り、又、進んで研究に励み特殊血液疾患を発見され、血液学に大きく貢献された。
照 屋 寛 善	琉球保健医学の上で対結核、ハブ咬症、勤務医師の待遇などの問題の改善に努められた。また、復帰前より医学部設置を要望し、琉球大学保健学部長としても、その理想実現に努力された。

昭和63年度

氏 名	受 賞 理 由
真 玉 橋 ノ ブ	46年に亘り、看護業務に精励する傍ら、沖縄県の看護水準の向上、看護学の発展と看護婦の養成等に尽力、貢献され、昭和60年度にはナイチンゲール賞を授与された。
犀 川 一 夫	長年に亘る研究成果の上に、昭和41年より沖縄県救ライ事業を引き受けられ、愛楽園園長、財団法人沖縄県ハンセン病予防協合理事長を歴任し、理想的な治療環境の実現に大きな成果をあげられた。昭和63年度には琉球新報賞、本賞の他に朝日社会福祉賞を受賞された。
大 浜 方 栄	沖縄県医師会会長を11年に亘り務められ、日本復帰前後の混乱の中で、戦後の窮乏を極めた沖縄県医療の復興、発展に貢献された。また、県教育長として県民の教育に対する関心を喚起された。

平成元年度

氏 名	受 賞 理 由
佐 藤 八 郎	昭和29年頃より、沖縄県における各種疾患の検診、治療に努めて、疾病の分布を調べ、無医地区の医療を応援され、戦後医療不足の時代に、率先して民間医療施設の充実を推進された。この間、WHO等の国際活動にも精力をさかれた。
沢 井 芳 男	県の委託により終始一貫して蛇毒の研究に当られ、世界的な権威者としてWHO等で活躍される一方で、本県のハブ対策と医療の発展に寄与された。
植 村 操	わが国の先覚的眼科の権医であられ、初代琉球大学保健学部附属病院長として、米軍政下の時代から、沖縄で最初の国立大学保健学部附属病院の開設に当られ、多くの困難を克服して、大任を成就された。
ジョージ・W ハンター	米軍占領下の沖縄にあつて、国内の学者、行政府と共に寄生虫病撲滅に成果を挙げられた。

平成2年度

氏 名	受 賞 理 由
鈴 木 淳	精神衛生行政、病院管理学の研究ののち、琉球大学保健学部教授に就任した。医療扶助審議会、及び沖縄県地方精神衛生審議会の委員として、地域の精神医療システムの整備に努めた。昭和51年附属病院長就任と同時に琉大移転整備計画推進協議会、医学部創設準備委、琉大将来計画研究委の各委員、同52年からは医学部創設準備委専門委員等、医学部創設の隠れた主役を務め、大きな功績があった。又、医学部創設直前の大学病院によもやと思われた研究棟を増設し、教官の研究の場を作った。県医療界では沖縄県の精神衛生事業の整備のみならず、健康増進センターの設立など、保健学部創設の理想であった県民衛生・健康の向上に大きな貢献をされた。
稲 福 盛 輝	県立診療所医師をスタート台とし、東大教育学部及び東京医科歯科大学にて健康教育及び疫学を学び、その後の20余年開業の傍ら、学校医、大学教育に盡した。その間、複数の公衆衛生関係団体の役員としてその発展に盡し、学会活動に於いても沖縄県公衆衛生学会、民族衛生学会の幹事として、これら衛生関連学会の定着発展に寄与し、多くの県内或いは厚生大臣からの表彰を得た。特に沖縄戦で失われた明治以来の保健衛生統計資料収集編集を行なって、近代沖縄医療史の重要部分を形成するのみか、本県の公衆衛生事業の基礎をなすものとして高く評価される。
福 田 雅 俊	高名な糖尿病における眼底変化についてのエキスパートであるが、琉大保健学部時代に3代目の大学附属病院眼科科長に就任、更に、医学部初代教授として多数の専門医を育成する傍ら、地域の眼科学の振興に盡し、又、日本医学会総会にて連続してシンポジストを務めるなど多くの学会へ貢献を続け、琉大の名声を上げた。昭和62年4月より平成3年3月まで4年間、2代目医学部附属病院長を務め、新設医大のハンデの中、病院の整備充実に当られた。

平成3年度

氏 名	受 賞 理 由
新 垣 浄 治	卒後終始臨床の研修に励み、卒後4年にして沖縄中部病院長、コザ看護学校長となった。その後、環境保健部関連の要職を歴任し、永年に亘り、県立中部病院長として卒後教育に盡し、全国自治体病院協議会理事等を勤め最近の県内医療の向上に資する所大であった。厚生大臣はじめ5種の表彰を受けている。
田 端 辰 夫	琉球政府時代より環境保健部関連の要職を歴任、琉球大学保健学部附属病院長として看護、保健、医学の教育向上に盡した。また、厚生大臣からの感謝状を含め、数々の表彰を受けている。
照 屋 善 助	早くから琉球政府の公衆衛生と医療対策に貢献し、常に住民、患者の立場から各種医療、福祉事業に献身し、結核予防会10周年記念大会長賞、厚生大臣、知事の表彰など計4回を受けている。
當 山 堅 一	僻地医療、保健所業務、結核予防会診療所長、県総合保健協会事業を通じて、県民の保健と県の保健医療事業の向上に盡した。また、藍綬褒章をはじめとし、数々の表彰を受けている。

平成4年度

氏 名	受 賞 理 由
金 城 妙 子	米国、台湾、ハワイ等で看護の行政及び教育に関する研修を受け、その間、沖縄県看護協会、北部保健所に勤務する傍ら、県看護婦試験委員を勤める。と共に、公衆衛生看護学校教員、その後、県社会局公衆衛生課を経て琉球看護婦協会会長、那覇看護学校校長代理となり、その傍ら琉球大学、沖縄大学等で教育を行なった。昭和52年～57年には特別看護老人ホーム「ありあけの里」所長をつとめた。このように変転する戦後の沖縄で保健婦活動の実際、教育及び行政面に幅広く活躍し、大きな社会へのインパクトを与えている。昭和47年 藍綬褒章、昭和51年 知事表彰、昭和56年勲6等瑞宝章、昭和57年 朝日社会福祉賞を受けている。
佐 々 学	衛生動物学、寄生虫学、熱帯医学の各分野において50年にわたる研究・教育の業に精励し、豊富な学識経験と温厚な人柄をもって多数の医師・研究者・技術者を育成、ことに熱帯医学を志す人材を数多く世に輩出せしめている。先生は、その50年の活躍中いくつかの風土病を消滅させたが、沖縄におけるフィラリア撲滅に対する影響は大きく、沖縄における今日の安定した健康安全な国土の基盤作りに貢献されたところ誠に大である。50年の足跡は膨大な学術上の業績を生み、行く先々活気があふれ、国際交流が促され、各界に向上と発展をもたらしした。

平成5年度

氏 名	受 賞 理 由
原 實	戦後間もない昭和27年来沖、琉球政府社会局医政課長となり、以来、琉球政府、沖縄県の公衆衛生医療行政の諸分野において責任のある業務に就任された。昭和32年米国留学ミシガン大学公衆衛生部終了、修士の称号を授与され帰沖、引き続き琉球政府沖縄県における保健医療の諸分野に就任、その水準向上や看護教育及び保健業務従事者の資質向上に専念寄与すること大なるものがあつた。

平成6年度

氏 名	受 賞 理 由
尾 辻 義 人	鹿児島大学内科に35年間在職し、この間、熱帯病の研修を受け、東南アジア沖縄等の疾病学術調査団に参加した。その経験から、沖縄では佐藤教授を助けて、広くフィラリアに対する医療の普及につとめ、本県におけるフィラリアバンクロフティの撲滅に力となった。これらは、大学医学部設置前の本県内での専門的医療助成として多大な成果があり、住民の健康・福祉の増進に寄与した。
永 盛 肇	琉球大学医学部の初代法医学教授として、その講座の創設・発展につとめる傍ら、本県内に於ける変死体の検案・解剖（司法、行政）のシステム化を逸早く確立した。更に第2代の医学部長として2期4年間、医学部の充実につとめると共に附属地域医療研究センターの設置に尽力した。又、タイ国チェンマイ大学医学部、及び中国の中山医科大学との学術交流に途を開いた。沖縄における衛生行政、司法医学への貢献は多大なるものがある。

平成7年度

氏 名	受 賞 理 由
稲 福 全 三	那覇市医師会長、沖縄県医師会副会長、及び理事として、沖縄県、特に那覇市医師会の発展に尽力された。具体的には、医師卒後教育、看護婦養成、地域医療、高齢者医療対策に貢献された功績。

平成8年度

氏 名	受 賞 理 由
池 宮 喜 春	熊本医科大学専門部卒、昭和26年琉球群島政府立金武精神病院を皮切りに同公衆衛生課長、那覇保健所長など要職につかれたが、東風平村の要請により同村で診療活動を行なうため辞任され、昭和47年（財）予防医学協会専務理事、理事長、（財）沖縄県総合保健協会理事長、同附属診療所長を兼務、今日に至る。この間、県民の健康水準の向上に果たした役割は大きく、県知事、厚生大臣より表彰を受けた。長い持続を以て今日、県の社会保健衛生の基盤整備に当たられたことに敬意を表すものである。
大 澤 炯	琉球大学にて腎結石、腎不全、膀胱癌等の手術療法、腎嚢胞発生の多施設間研究等に成果を挙げた。日本透析医学会では発足時（日本透析研究会）から幹事を務め、厚生省腎不全の治療に関する審議会委員及び東京都社会福祉審議会委員を務めた。全県下の透析施設を研究会へと組織して、全国最低であった腎移植の普及率を全国並とし、更に九州地区で最初の腎移植患者登録と提供、腎マッチングのシステム化に務め日本最新の腎移植を全国最先端グループとし、厚生大臣の感謝状を受けた。この間、昭和60年より一患者の遺志を体して発足した（財）沖縄県疾病研究財団（現沖縄県医科学研究財団）の設立に努め、今年まで10年余、県下の医学、保健学、医療の若手による研究増進に寄与しつづけている。

平成9年度 不選考

平成10年度 不選考

平成11年度 不選考

平成12年度

氏 名	受 賞 理 由
比 嘉 幹 郎	当財団設立当時から設立発起人代表者となり、資金造成、各理事、評議員への働きかけ等を通じて会員増強にも努められ、本財団の基礎を盤石のものとされた。尚、沖縄振興開発金融公庫副理事長の間は、財団理事長としての業務を元琉球大学長、宮城健氏に依託された。その後、平成5年6月より今日に到るまで、理事長として県内、各界への影響力を以って財団の発展に寄与しておられる。本財団がますます発展しつつあるのは、比嘉理事長のお人柄によるところが大きい。
安 里 政 芳	本財団設立の趣旨に大いに賛同され、各方面への基金造成を働きかけると共に、ご本人も多大の基金の増大をはかり、設立基金の造成に万全を期された。多事に亘ってもお忙しい本務の傍ら、陰にひなたに当財団への助力を惜しまれなかった。本財団の今日あるは、安里氏に負う所が大きい。

平成13年度

氏 名	受 賞 理 由
比 嘉 實	氏は、昭和40年に沖縄赤十字病院に勤務され昭和44年には副院長、翌45年には院長に就任され、以来、平成12年に退官されるまで実に29年余に亘り、その卓越した手腕を振るわれ、県民の保健・医療・福祉の向上に多大な貢献をされた。特に病院長就任後、長期展望に立った施設設備の充実に貢献するとともに、昭和47年の本土復帰に伴う日本赤十字社への組織移行、煩雑な業務の遂行等の中で、施設の新築移転を計画し、敷地並びに予算の確保に奔走され、昭和59年、現在地に総合病院を建築した。沖縄県医師会においては、平成10年より現在に至るまで、医学会長の要職を務められ、その卓越した企画、指導力を発揮され、医学会の運営並びに会員の学術高揚の発展に貢献された。

平成14年度

氏 名	受 賞 理 由
安 座 間 廉	昭和21年12月より琉球政府平安名診療所の所長として就任、終戦直後の沖縄県における医療体制を築いた一人である。また、医師会活動においてもこれまで数々の要職を歴任され、第3代中部地区医師会会長、沖縄県眼科医会会長としても活躍され多大な功績を残されている。今日も尚、中部地区医師会顧問として医師会活動における指導、助言を行っている。
喜 屋 武 朝 章	昭和32年5月沖縄赤十字病院院長に就任、在任中脆弱公的病院の基盤整備に多大な役割を果たす。それだけでなく、那覇市医師会や沖縄県医師会の役員に就任し、医療保険制度の法制化に大変苦労を重ね、県民の医療福祉の増進に大きく貢献した。又、沖縄消化器内視鏡会、沖縄対ガン協会の設立、県内唯一の癌治療施設、臨床検査ガンセンターの設立等に奮闘された。
大 山 朝 弘	昭和57年より中頭病院院長、昭和60年より理事長も兼任し、今日の中頭病院の基盤を担ってきた。昭和63年沖縄県医師会理事に就任し、県民の保健・医療・福祉の向上に多大な貢献をされた。また、平成8年には（財）沖縄県医療福祉センター理事に就任し、平成14年までその任を全うされた。平成9年には沖縄医事功労県知事表彰、また泌尿器科疾患及び腎不全の治療に指導的な役割を果たしてこられた業績が認められ、平成10年には腎不全対策推進功労者厚生大臣感謝状を受けられた。

平成15年度

氏 名	受 賞 理 由
上 村 昭 栄	昭和40年に産婦人科を開業以来、多忙な診療の傍ら、母子の健康管理に務めた。平成13年には、地域教育活動に尽力したことが認められ、沖縄市市民栄誉賞を受賞。日本母性保護医協会沖縄県支部長（現：日本産婦人科医会）を平成2年から11年間の永きに亘り務め、母性保護のための婦人ガン検診の受診率の向上に努めた。さらに、重症心身障害者のためのおぎゃー献金運動に情熱を傾け強力に推進した。地域保健活動においては卓越した見識から市行政推進の上でも大きく影響を及ぼし、地域医療・福祉・保健衛生活動の原動的役割を果たした。以上の功績により、文部大臣賞、厚生労働大臣賞、琉球新報賞等を受賞している。
真 栄 城 優 夫	昭和32年琉球政府立愛楽園に勤務し、その後米留学を経て、昭和40年琉球政府立那覇病院に勤務、本県の医療の確保に貢献した。当時県内で初めての慢性硬膜下血腫の除去手術を外傷患者に施行し救命した。昭和43年から琉球政府立中部病院に勤務し卒後臨床研修医の指導医として活躍、県内外の数多くの若き医師達に米国で培った医学の知識と技術、救急医療を自ら医療の最前線に立ち直接指導した。また、ハブ咬傷の治療についても筋膜切開法を考案し、毒蛇咬傷治療に貢献した。昭和51年には沖縄県内に唯一の救命救急センターを整備、またICU病棟の整備に努めるなど重症救急患者の治療体制の充実に尽力した。

平成16年度

氏 名	受 賞 理 由
新 垣 元 武	30年に亘り民間病院長として地域の精神医療と福祉に貢献しただけでなく、開院当初から県下の各看護学校の実習病院として看護教育にも寄与し、いち早く精神障害者のデイ・ケア施設、社会復帰施設を導入し、さらに研修医の研修病院としての指定も受け、沖縄県の精神医療施設の質的向上に範を垂れてきた業績は高く評価される。保健所嘱託医としては精神障害に対する啓蒙活動に従事し、訪問診療を通して、埋もれていた多くの精神障害者に医療の道を開いた。県地方精神衛生審議会委員、県精神保健福祉協会理事として長年にわたり県の精神保健行政にも尽力してきた。
比 嘉 國 郎	生業に及ばず甚大な犠牲を厭わず沖縄県医師会役員として28年間に亘り、医師会の会務運営、事業推進に大きく貢献した。なかでも開かれた医師会づくりを提唱し、地区医師会と県医師会の連携を密にし、もって地域医療の充実発展に尽力した。平成7年8月に太平洋戦争・沖縄戦終結50周年記念事業の一環として県より委託を受け、国内外の長寿研究における権威者を招聘し、沖縄県長寿の検証と世界長寿地域宣言事業を開催し、本県が世界における長寿地域であることを国内外に発信した。企画、立案から実施運営の全てに携わった氏の功績なくしては、当事業の成功は語れない。沖縄県医療審議会委員、公安委員会委員をはじめ、30以上を超える諸団体の委員会委員を歴任し、県行政をはじめ各団体の事業推進に大きく貢献した。

平成17年度

氏 名	受 賞 理 由
鈴 木 信	沖縄の地域医療を推進し、離島僻地医療と老人福祉医療を円滑に進めることを目的として今日まで尽力してきた。医療管理的観点から、自治体や医師会等との連携に取り組み、沖縄県や医師会、学会、諸団体の会長、理事、委員長等の要職を歴任し、研究分野でも地域医療と老人医療に多くの業績を残した。ことに包括的活動性成功長寿百寿者の医学的、社会学的研究は世界的に他に類をみないものであり、著書「データでみる百歳の科学」が超高齢医学のバイブル的存在になっている。琉球大学を定年退官後、沖縄長寿科学研究センター長として活躍されており、長寿に関する著書、論文、一般講演等を通して、21世紀の健康長寿について医療保健に関わる医療人や行政関係者のみでなく、一般の住民の方々にも成功長寿を推しすすめるべく日々活躍している。
源 河 圭 一 郎	昭和42年4月、医師不足の劣悪な医療環境に悩む沖縄で厚生局那覇病院に赴任、沖縄県における肺結核の外科療法、肺癌の外科療法の先駆的役割を果たされた。昭和55年沖縄病院赴任に伴い肺癌症例の飛躍的増加をもたらし、平成12年12月の時点で21年間の肺癌症例は2850例に達した。この業績は国立病院・国立療養所肺癌研究会の幹事施設としての重要な役割を担うものであった。昭和58年沖縄病院副院長に就任、平成6年には院長に就任され、院内感染防止対策、特別管理給食加算の導入を指示、加えて呼吸器外科領域に高度先進医療、胸腔鏡下手術を導入し沖縄県における唯一の認定施設として認可された。このように病院の経営基盤の確立に加え、臨床研究の推進、医師の卒後研究、地域医療の医療水準の向上の為の病診連携、県医師会との連携等と調和のとれた病院作りは今後の国立医療のありかたの指針となるべき方向性を示されたものといえる。

平成18年度 該当者なし

平成19年度

氏 名	受 賞 理 由
茨 木 邦 夫	昭和54年に琉球大学保健学部附属病院助教授として赴任し、昭和57年、琉球大学医学部整形外科初代教授に就任した。学生、若手医師の教育に尽力され、沖縄県における整形外科の教育・発展に大きく貢献した。平成3年から1期2年附属病院長、さらに平成5年から2期4年医学部長を務められ、沖縄県における医学教育ならびに卒後教育に大きく貢献した。その貢献は県内にとどまらず、平成3年から故大澤炯医学部長がスタートされたラオス国公衆衛生プロジェクトを平成5年から引継ぎ、公衆衛生プロジェクト終了後平成7年からラオス国セタティラート病院プロジェクトを立ち上げ、国際的にも高く評価されている。
斎 藤 厚	琉球大学医学部在任中の18年間に沖縄県における感染症診療レベルの向上に常に尽力され、その基盤を築くとともに、多くの感染症専門医を育成してきた。中でも先生のライフワークであるレジオネラ感染症の臨床研究に関しては、常に日本をリードしている。さらに、沖縄県において風土病として広く蔓延していた糞線虫撲滅のために、イベルメクチンによる治療を確立した。平成11年に日本化学療法学会、志賀潔、秦佐八郎記念賞を受賞されている。琉球大学医学部在任中は、多くの全国学会の会長を務められ、その実績は、全国的にも高く評価されている。
幸 地 昭 二	昭和37年8月に内視鏡同好会（後改め沖縄消化器内視鏡会）の設立を提唱し、自らも理事に就任した。また、本土講師招聘による早期ガン発見のための月例研究会並びに講演会の企画実施により、会員の検診技術等の向上に尽力した。昭和40年1月には、沖縄タイムス社並びに沖縄県医師会の共催により、各医療機関における胃集団検診を組織的に行い、県民に対する対ガン思想の啓蒙普及に尽力した。沖縄県対ガン協会設立以来、多年に亘り協会事業に従事し、地域住民の疾病予防及び早期発見等に尽力し、地域の公衆衛生、保健衛生事業に貢献した。

平成20年度 該当者なし

平成21年度

氏 名	受 賞 理 由
金 城 幸 善	昭和40年から平成8年までの31年間の長きに亘り各県立病院の要職を歴任した。在任中は、救急医療、離島・僻地、高度・特殊医療等の政策医療を確保し、県民の医療福祉の増進に貢献した。県を退官後は平成13年より財団法人沖縄県総合保健協会理事長に就任し、離島を含む県下全域の地域、学校、職域の検診及び人間ドック等を実施し、疾病の早期発見と早期治療により予防医学事業の推進に活躍している。更に、沖縄県の長寿復活に向けた新たな取り組みとしてアンチエイジング医療センターを開設した。

平成22年度 該当者なし

平成23年度

氏 名	受 賞 理 由
安 仁 屋 洋 子	琉球大学医学部保健学科教授として41年間にわたり、薬学的研究の研鑽に努められ、ハブ毒の研究にはじまり、オニヒトデの棘皮毒等沖縄特有の研究をすることを常に心がけ、沖縄県のバイオ資源の抗酸化作用に至るまで多岐にわたり研究に励まれた。また、研究を社会に貢献させるため、多くのプロジェクトや産官学の連携にも尽力された。その一方で、基礎研究に関しても精力的に研究を邁進され、薬物代謝第二相酵素である膜結合性のグルタチオントランスフェラーゼの分野では第一線で活躍されている。日本国内でも功績が認められ、日本薬物動態学会フェローの称号の授与をされている。

平成24年度 該当者なし

平成25年度 該当者なし

平成26年度 該当者なし

平成27年度 該当者なし

平成28年度 該当者なし

平成29年度 該当者なし

平成30年度

氏 名	受 賞 理 由
許 田 英 子	沖縄初の保健婦国家資格を取得し、保健婦教師資格取得後、琉球政府立沖縄公衆衛生看護学校教師に就任、在職中、琉球政府派遣で2年間米国へ留学しニューメキシコ州助産婦資格を取得。沖縄県小児保健協会理事として全国の学術集会開催に協力した。県立コザ看護学校校長時代にハワイ大学の故ドロシー元山先生を招聘しフィジカルアセスメント教育を普及した。また開業助産師の再教育を目的に、アメリカにおける正常分娩や両親学級の知識の普及に努め、現公立大学法人名桜大学看護学科の設立など、多くの人材輩出に貢献した。沖縄県環境保健部医務課副参事、生活福祉部参事兼生活消費センター所長、首里厚生園園長、環境保健部参事監を歴任。沖縄助産師会の法人化に努め、一般社団法人沖縄母子未来センター開設に尽力し、正常分娩の普及、母子総合相談や看護学生の実習場を提供。沖縄県知事賞、日本助産婦会会長賞、村松志保子賞、厚生大臣賞等を受賞されている。

平成31年度

氏 名	受 賞 理 由
真 栄 城 徳 佳	昭和42年当時の沖縄県の医療困窮状態に心を痛め、真栄城耳鼻咽喉科を開業。年中無休診療を35年間実施し、1日400人以上の患者を診察し、県民の健康向上に努めた。昭和61年に知念半島の無医地区に沖縄メディカル病院を開設し、地域住民のために33年間診療を続け、現在に至っている。平成2年には地域医療の充実並びに町民福祉の向上に寄与したことにより、佐敷町より社会福祉功労を受賞している。一方、専門とする耳鼻咽喉科の教育学術上の功績として、特別研究・学術講演会・学術交流講義の実施と助成補助事業などを実施し、琉球耳鼻咽喉科研究振興会の会長として、琉球大学との共同研究事業と補聴器相談事業を実施した。人工内耳（インプラントシステム）装置手術は、当時の風疹児手術へ到達し、高度先進医療の認可健康保険の適応となった。平成2年全国日本学士会アカデミア医学大賞を受賞。現在、一般社団法人全国日本学士会会長を務められている。

令和2年度 該当者なし

令和3年度 該当者なし

令和4年度

氏 名	受 賞 理 由
藤 田 次 郎	2005年に琉球大学医学部教授として就任後退任までの17年間、感染症・呼吸器消化器内科学の臨床・教育・研究に従事され、琉球大学医学部副学部長、同医学部附属病院長を務められた。その間多くの学会の会長、理事、支部長、委員長を歴任し2014年には日本嫌気性菌感染症学会会長として全国学会を沖縄県にて開催した。琉球大学第一内科診療科長として結核、エイズ、ウイルス性肝炎、新型インフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症の診療を担い感染症指定医療機関に加えてエイズ診療拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院としての機能を確立した。また、沖縄県新型コロナウイルス感染症専門家会議座長として2年間活動し、その活動は沖縄県内で高く評価されている。

令和5年度

氏 名	受 賞 理 由
中 田 安 彦	長年に亘り中部地区医師会役員として地域医療を担う医師会活動で中心的役割を果たし、現在は同医師会会長としてその活動に粉骨砕身されている。その功績として、先天性新生児代謝異常検査の実施や、中部地区における救急告示病院の増床要請、在宅医療・介護連携推進事業等を展開し、地域の医療向上に貢献した。平成8年には愛聖クリニックを開業しこれまでに通所介護、訪問介護等全15にわたる事業を展開し、地域に根差した医療機関として今日まで地域住民の信頼を集め医療・保健・福祉へ大きく貢献している。また、「児童の健康増進・保持」を医師の使命とし、26年間に亘り、学校医として生徒及び教職員の健康診断・教育・相談を通して疾病の予防・早期発見並びに事後指導に務め地域保健衛生活動の円滑な運営に大きく貢献している。

研究奨励賞

昭和61年度

氏 名	所 属	受 賞 理 由
田辺 将夫	琉球大学医学部 細菌学助教授	腫瘍細胞の宿主による認識の研究に勤しまれ沖縄における基礎的免疫学研究の分野でパイオニア的境地を拓かれているため。
荒木 弘一	琉球大学医学部 保健学科教授	成人T細胞白血病（ATL）の病態と感染発症に関する研究を行い今日の沖縄で最も緊急を要する問題に臨床研究を遂行中であるため。
仲山 實	琉球大学医学部 泌尿器科学助手	乳び尿の免疫能低下と癌発の研究を行い沖縄地域にて重大な意義を持ち発展途上国にて応用が期待される問題に知見を固めつつあるため。

昭和62年度

氏 名	所 属	受 賞 理 由
井上 文英	琉球大学医学部 第一生化学助教授	沖縄県における遺伝性球状赤血球症と赤血球膜蛋白質バンド4・2との関連研究の成果を評価され沖縄地域にて重要研究と認められたため。
宮里 好一	琉球大学医学部 精神神経科学助手	事象関連電位の動的解析法を用いた精神分裂病の病態研究と診断への応用という今日の沖縄で最も緊急を要する問題につき臨床研究を遂行中であると認められたため。
早川 正道	琉球大学医学部 泌尿器科学助教授	尿路悪性腫瘍に対する免疫療法一特に腎腺癌に対して新免疫療法の改良により腫瘍免疫療法の分野で最も重要な問題提起をし、斯界でのパイオニア的役割を果たしたと認められたため。

昭和63年度

氏 名	所 属	受 賞 理 由
楠本 昌子	琉球大学医学部 保健学科助教授	重金属、染料、アスベスト等による産業公害、特に悪性腫瘍の治療学に大きな業績をあげ、本財団の研究助成も受けるなど、更に発展が期待される。
牧野 芳大	琉球大学医学部 ウイルス学助教授	昆虫ウイルスー昆虫細胞系を用いたフラボウイルスの遺伝子発現一に日本で最初に成功し、学問的寄与が大きく更に研究を進めている。

平成元年度

氏 名	所 属	受 賞 理 由
金城 福則	琉球大学医学部 第一内科学助教授	南西諸島に満延している糞線虫症に対し、その診断と治療の両面における研究で、新技術を達成しつつあり、今後一層の発展が期待される。
国元 憲文	琉球大学医学部 精神神経科学助教授	県下で特に問題となっている精神病患者の重大犯罪について問題点を解明、将来の対応等に期待される。
楠見 彰	琉球大学医学部 耳鼻咽喉科学講師	培養表皮細胞の分化と機能に関する研究を通じて、癌化の実験モデルの一つとなる可能性を示した。今後の発展が期待される。
小杉 忠誠	琉球大学医学部 第一生理学教授	血小板ヒスタミンのアレルギー反応における位置づけを明確にした。今後その応用が一般化すれば、その臨床的意義が大きい。

平成2年度

氏 名	所 属	受 賞 理 由
佐藤 良也	琉球大学医学部 寄生虫学教授	糞線虫の種々の研究を重ね、本症の重要な問題点を明らかにし、解決に向けた研究を進めると同時に、最近では、本症とATLの合併に関する研究を展開中。本症に対する新たな認識を啓発してきた功績は大である。
出口 宝	琉球大学医学部 第一外科学助手	臨床と研究に精励して、この間、甲状腺疾患と消化器癌のDNAの研究を行い、更に今回の研究は今までの研究を一步前進させるものである。継続的な精進と発展を期待したい。
秦野 直	琉球大学医学部 泌尿器科学助教授	コンピューターを用いた尿流に関する診断精度の向上と治療の高度化、腎尿管膀胱内圧の同時測定、安全な自動結石溶解装置、内視鏡用3次元位置測定装置の開発の研究等で、多くの業績を挙げて世界的に注目を集めている。
村上 啓治	琉球大学医学部 第二内科学講師	糖尿病と冠動脈硬化との関連性を臨床的に解明し冠動脈の形態学的特徴、代謝異常の冠動脈硬化の進展に対する機序を明らかにした本研究の意義は大である。実験的にも新境地を開拓した。

平成3年度

氏 名	所 属	受 賞 理 由
井関 邦敏	琉球大学医学部 第三内科学講師	定住傾向の強い沖縄県住民に着目し、若年齢化を示す透析患者人口内で血管性成人病の療学調査を行い発症危険因子も追究してきた。このモデルは将来一般人口の成人病との比較や予防の研究に発展すべきものとして期待される。
砂川 元	琉球大学医学部 歯科口腔外科学 助教授	インダクション化学療法を病理診断学に基づいて行うことを特徴とする薬剤、手術の両治療法の組合わせによる口腔内扁平上皮癌の治療成績の向上（5年生存率81.0%）に成功し、更に予後の改善への努力が期待される。
仲宗根 昇	琉球大学医学部 細菌学講師	昨今比較的陽の当たって居なかった腸内病原菌につき、抗原を同定して来たが、その成果をもって現在地球規模で重要性を増しているコレラ菌の定着因子とワクチン抗原の研究に応用しようとしている。
仲田 精伸	沖縄協同病院内科	重症糞線免疫においても、意義の大きい免疫抑制作用を示すことを明らかにした。今後のHTLV-I、及びATL研究発展のため一層の精進が期待される研究者である。

平成4年度

氏 名	所 属	受 賞 理 由
新垣 民樹	中頭病院内科	医学部卒業後3年にフィリピン熱帯医学研究所にて経験を積み、細菌培養中の偶然から適中率の高い新糞線虫の検出法を考案し、世界中の採用する所となった。自ら本法により沖縄各地の感染頻度を明らかにし、県内における対策医療に資する所大であった。

平成5年度

氏 名	所 属	受 賞 理 由
長谷川英男	琉球大学医学部 寄生虫学助教授	氏は沖縄県における人畜共通寄生虫症の研究において自他共に許す未踏の領域に新発見を重ね、これら疾患の理解、予防、診断等に大きく貢献された。又今後の研究の更なる発展には大きな期待が寄せられており、将に本財団の研究奨励の精神に合致する中堅研究者と認められた。
當間 孝子	琉球大学医学部 保健学科助手	氏は医動物熱心な研究者として研鑽を重ね、特に有害な蚊に関する専門研究者としての大きな実績を挙げている。中でも独創的な天敵利用の離島環境下での有害蚊の防除は国際的にも高い評価を得ている。

平成6年度

氏 名	所 属	受 賞 理 由
高須 信行	琉球大学医学部 第二内科学教授	甲状腺機能障害について幅広い研究分野にオリジナリティある業績を挙げ、学会に強いインパクトを与えている。又、他の内分泌学分野でも実験糖尿病発症の分子化学的研究などに取組んでおり現役として今後の発展が期待される。

平成7年度

氏 名	所 属	受 賞 理 由
石田 昭彦	琉球大学医学部 脳神経外科学助手	トロポリスペクターのプロモーターの工夫により導入遺伝子による生産量を調節することが可能であることを証明した。これは、今後のこの新しい治療法の臨床への応用に大きな足掛かりとなるものと考えられる。
川上 和義	琉球大学医学部 第一内科学講師	感染症における細胞性免疫学的研究、特にクリプトкокス感染症をモデルとしてT-リーパと種々のサイトカインの役割について検討しその成績はその都度学会報告と英文投稿を行いこの分野に大きなインパクトを与えている。

平成8年度

氏 名	所 属	受 賞 理 由
徳 誠吉	琉球大学医学部 第一生化学助手	リボソーム蛋白発現調節の研究は、遺伝子情報の発現調節の研究に大いに寄与するものであり、又解明の進んでいなかったets癌遺伝子産物に属するものであることをも確認している。今後、その精製と性状の解析に期待する。
嘉数 朝一	琉球大学医学部 第一内科学助手	アレルギー性炎症疾患の分野における研究に従事し「ケカイン・RANTESの好酸球への関与」についての研究発表等喘息の病態解明のため多くの研究発表を積極的に進めている。
菅谷 公男	琉球大学医学部 泌尿器科学講師	現在開発中である中枢作動性の排尿障害治療薬の脳内作用部位を同定、治療面にも大きく貢献。更に膀胱収縮にのみ働くと考えられていた骨盤神経が膀胱弛緩にも働き、骨盤神経知覚線維と節後神経の間に膀胱容量依存性に働く局所反射が存在することを示すなどこれまでの常識を覆す重要な発見がある。
新崎 章	琉球大学医学部 歯科口腔外科学 講師	研究実績である「口腔扁平上皮癌症例に対するinduction chemo therapyの臨床病理学的研究」は、口腔癌の治療において個々の症例の悪性度に対応した型別診断と型別治療の妥当性を示唆するもので、この体系的な口腔癌治療法が完成すれば口腔癌患者のQ.O.Lの向上に貢献するものと考えられる。

平成9年度

氏 名	所 属	受 賞 理 由
只野 昌之	琉球大学医学部 ウイルス学助教授	病原ウイルスの内部構造の研究を通じたヒトへの感染メカニズム或は免疫メカニズム生ワクチン開発に関する機構の解明。その意義は大きく、近未来での臨床応用も期待される。
平塚 博義	琉球大学医学部 歯科口腔外科学 助教授	総合的データの解析による悪性腫瘍のステージ診断法の樹立。口腔癌診療上実用的な具体案として一般化する可能性が大きい。
宮川 絢子	琉球大学医学部 泌尿器科学助手	泌尿器科悪性腫瘍細胞活性の分析を通じて、悪性度と予後の診断への貢献が大きく、ひいては患者のQ.O.Lの向上に資する所も多大である。

平成10年度

氏 名	所 属	受 賞 理 由
剣持 直哉	琉球大学医学部 第一生化学助手	生物にとって重要な物質である蛋白質を合成するリボソームの研究に従事し、従来困難であったリボソーム蛋白質遺伝子座の決定を成し遂げた。

平成11年度

氏 名	所 属	受 賞 理 由
松浦 稔展	琉球大学医学部 小児科学助教授	小児の高アンモニア血症をテーマとした研究で国際的に高い評価を受けている。世界で初めてAngelman症候群の原因遺伝子を明らかにした事、Alport症候群の解析で協力した研究が国内でも高い評価を得た。
新城 安哲	県中央保健所 生活環境課	未知の研究分野に挑み、沖縄における危険生物の研究の端緒を開く。その研究は亜熱帯・沖縄の地域特性をふまえた社会医学的意義深い研究である。それらの研究成果は、生態学的研究に止まらず臨床症状、治療といった臨床医学的研究、毒生物の分子化学的解析研究の発展を期待する。
喜舎場 学	琉球大学医学部 歯科口腔外科学助 手	口腔癌治療に精力的に取り組む、癌の悪性度に基づいた体系的治療、画像診断に関する研究を継続して行っている。この研究成果は学会においても十分な評価を得ている。

平成12年度

氏 名	所 属	受 賞 理 由
田村 俊也	琉球大学医学部 小児科助手	小児内分泌を専門分野に分子生物学的手技を身につけ、アメリカのBaylor大学でOxidant/Antioxidant領域で一連の研究を行ってきた。氏のグルタチオン還元酵素を中心とした研究は、培養細胞を用いた実験から動物実験そして臨床応用への流れが緻密に計画されているため、それぞれの段階で実質的な研究成果が期待できる。
高倉 実	琉球大学医学部 保健学科助教授	学校保健分野で特に沖縄の児童生徒の健康問題について保健行動の視点から活発な研究活動を展開し、目覚しい研究成果を挙げている。氏の研究は抑うつ症状と心理社会的要因との関連性を検討した本邦初の疫学研究である。
海川 正人	琉球大学医学部 第二生化学助手	癌細胞の浸潤・転移のメカニズムを明らかにするために、細胞骨格再編成の機構の解明に取り組んでおり、酵母の遺伝子操作から蛋白質化学まで多彩な技術を駆使し、研究を進めている。

平成13年度

氏 名	所 属	受 賞 理 由
金澤 文治	琉球大学医学部 附属病院 耳鼻咽喉科講師	各種遺伝子導入法を研究し、更にアデノ随伴ウイルスベクターをいち早く癌治療の研究に応用するなど、極めて独創的に奮む研究を行っている。氏の研究は安全で遺伝子発現効率の十分な治療システムを確立する事であり、これからの医学研究に大きく進展をもたらすであろう。
大城 稔	琉球大学医学部 第二生化学 技術専門員	全種類のリーシュマニア原虫のチトクロームb 遺伝子のクローニングを精力的に進めており、すでに17種類について塩基配列の決定に成功している。氏の研究により海外渡航者のリーシュマニア症の予防や診断、更には世界規模での分子疫学調査にも大いに貢献するものと期待される。
佐久川 廣	琉球大学医学部 附属病院 輸血部講師	沖縄県におけるデルタ肝炎ウイルス感染の疫学調査やウイルス保有者の臨床像の特徴を肝臓学会、消化器病学会、感染症学会において発表し、高い評価を得ている。肝臓専門医としての観察力や洞察力に優れ、研究に対する意欲が旺盛である。

平成14年度

氏 名	所 属	受 賞 理 由
新垣 敬一	琉球大学医学部 歯科口腔外科 助手	唇顎口蓋裂治療の専門学会を中心として精力的に学会活動を行い、一貫治療に基づいたチームアプローチを継続してその中心として活躍している。また臨牀においても病棟医長として口唇口蓋裂の治療に直接的に関わっており、今後その研究の向上に大いに貢献するものと期待される。
百名 伸之	琉球大学医学部 小児科助教授	平成2年より小児血液腫瘍学を専門とし、沖縄県において現在ではこの分野での指導的立場にある。全国規模での臨床研究に参加し、本邦における小児血液腫瘍学の発展にも寄与している。今後は、小児腫瘍における免疫療法の開発も期待され、当該研究分野で大いに活躍するものと期待される。
久高 学	那覇市立病院外科	氏の乳癌の局所進展の検索は臨牀的な意義が大きく今後の乳癌治療、特に乳房温存術においては局所再発の制御という観点から必須の検査となるものと思われる。乳癌学会の認定医であり、積極的に乳癌治療の研究に従事している姿勢は、今後も活躍が期待される。

平成15年度

氏 名	所 属	受 賞 理 由
健山 正男	琉球大学医学部 附属病院第一内科 講師	主要研究テーマであるレジオネラ肺炎を中心とした呼吸器感染症に関する研究報告で多くの学会からシンポジストとして指名されるなど、その業績は高い評価を受けている。
井上 卓	もとぶ野毛病院内科	循環器疾患の予防医学的な側面から疫学研究に従事し、国内外の主要学会においてその研究業績を継続して発表しており、心血管疾患の発症予防に関して重要な資料が得られることが期待される。
戸板 孝文	琉球大学医学部 病態解析医科学講座 放射線医学分野 助教授	子宮頸癌の放射線治療に関する一連の研究業績が高い評価を受けており、放射線腫瘍学領域に留まらず臨床腫瘍学分野においても高い評価と期待をもたれている。沖縄県は全国的に子宮頸癌の罹患率が高く氏の研究成果が県民に寄与するものは非常に大きい。
幸喜 毅	琉球大学医学部器 官病態医科学講座 内分泌代謝内科学 分野助手	沖縄のバセドウ病患者の遺伝素因と発症機序を調べることが、その病態の解明や治療につながると考え意欲的に研究に取り組んでおり、本研究テーマは多くの学会においても高い評価を得ている。

平成16年度

氏 名	所 属	受 賞 理 由
天願 俊泉	琉球大学医学部 附属病院歯科口腔 外科講師	顎変形治療が立ち遅れていると考えられてきた沖縄県において唯一矯正歯科と口腔外科の両者を兼ね備えた人物として評価が高く、指導的な立場にある。
小川 和彦	琉球大学医学部 病態解析医科学講座 放射線医学分野 講師	放射線腫瘍学・分子腫瘍学において卓越した論文発表を行っており、今後の放射線治療において的確な治療方針を提供し、ひいては臨牀における治療成績の改善につながる貢献をしている。
安里 剛	琉球大学大学院医 学研究科分子感染 制御学講座細胞生 物学分野助手	先進的な方法論を追求する研究者であり、沖縄県におけるHPV感染の詳細な実態を明らかにすると同時に、各HPV感染女性に対する適切な対応も明らかにしつつある。

平成17年度

氏 名	所 属	受 賞 理 由
松崎 吾朗	琉球大学遺伝子実 験センター分子感 染防御分野教授	T細胞レセプター γ δ 型T細胞の感染免疫および粘膜免疫における機能の研究は国内外で高く評価されており、この分野の研究における国内の第一人者のひとりである。
砂川 昌範	琉球大学医学部生 理学第一講座委嘱 講師	血液平滑筋の分化、脱分化とカルシウムチャネルの機能変化、構築変化との関連に関する研究を進め、高い評価を得ている。
内田 厚	琉球大学医学部附 属病院泌尿器科講 師	分子生物学的手法をもとにした泌尿器科癌の診断、治療について研究しており、遺伝子組み換えの手法を用いた基礎研究の成果も国内外において高い評価を得ている。
富田真理子	琉球大学大学院医 学研究科病原生物 学分野助手	ウイルス感染による発癌機構の解明と新規治療法の開発について精力的に研究を進めており、今後もこの研究分野における更なる発展が期待される。

平成18年度

氏 名	所 属	受 賞 理 由
小宮 一郎	琉球大学医学部器官病態医科学講座内分泌代謝内科学分野助教授	虚血性心疾患、糖尿病、生活習慣病・メタボリック症候群の疫学的調査を継続しており、内分泌学会、糖尿病学会からの評価も高い。それにより沖縄県民さらには日本国民の健康維持に貢献している。
岡村 隆行	琉球大学医学部病態解析医科学講座育成医学分野講師	EBウイルス関連T/NKリンパ増多症の診断および治療に関する関連学会の評価も高く、琉球大学医学部赴任後は、血液腫瘍疾患の治療にも精力的に尽力されている。
山城 聡	琉球大学医学部生体制御医科学講座機能制御外科学分野助教授	心臓外科全般に亘り、幅広く基礎的、臨床的研究を進め、優れた成果をあげている。特に虚血-再灌流心筋傷害の研究は将来の心臓移植に寄与する研究と高い評価を得ている。

平成19年度

氏 名	所 属	受 賞 理 由
鈴木 敏彦	琉球大学医学部医学研究科感染制御医科学専攻病原因子解析学教授	病原細菌の粘膜感染機構の研究に我が国でいち早く細胞生物学的手法を導入し、感染の事象を分子レベルで解明してきた。細菌学会でのシンポジウムのオーガナイザーをはじめ他の学会等での招待講演も行い、次世代の感染免疫領域を担う研究者として注目されている。
大城 吉則	琉球大学医学部附属病院泌尿器科助教	沖縄県における献腎移植の普及および啓蒙活動を積極的に推進しており、腎移植医療について真摯に取り組んでいる。今後も沖縄県の腎移植医療に大いに貢献し、尽力するものと期待する。

平成20年度

氏 名	所 属	受 賞 理 由
平田 哲生	琉球大学医学部附属病院第一内科助教	糞線虫症の疫学的研究、発癌との関連、自己免疫疾患との関連に関する研究は世界的にも類をみず非常に独創的である。更にこれらの結果より将来的には糞線虫制圧による衛生環境の改善、癌疾患の減少が期待される。
宮里 実	琉球大学医学部器官病態医科学講座泌尿器科学分野助教	膀胱機能の再構築と排尿の中樞神経機構の解明について先駆的な研究を行っており、世界的にも高い評価を受けている。腹圧尿失禁に対する新たな薬物療法の開発に意欲的に取り組み、将来的にも社会貢献度は極めて高い。
大城 譲	琉球大学医学部器官病態医科学講座内分泌代謝内科学分野助教授	沖縄県人における肥満の遺伝因子の解明の研究に長年取り組んできており、その遺伝因子の発見により、国際的に高い評価を得ている。現在も肥満と糖尿病の遺伝研究に取り組んでおり、この研究が沖縄県の医療に寄与するところは非常に大きい。

平成21年度

氏 名	所 属	受 賞 理 由
新川 武	琉球大学熱帯生物圏研究センター分子生命科学部門准教授	遺伝子組換え技術を応用したサブユニットワクチンの開発研究に従事し、次世代型粘膜ワクチンの開発にとって不可欠といわれる免疫増強剤（アジュバント）とワクチンデリバリーシステムの開発に精力的に携わっている。このような先進的研究を発展途上国向けのワクチン開発に応用し、研究する姿勢は大いに評価されている。

平成22年度

氏 名	所 属	受 賞 理 由
比嘉 太	琉球大学医学部附属病院第一内科講師	レジオネラ症に関する基礎的および臨床的研究を遂行し、多くの研究成果を挙げており、これらの研究に関する論文は広く引用されその学術的重要性が学会その他の研究者にも認められている。今後も呼吸器感染症に関する研究を継続し新たな研究成果を挙げるとともに、臨床現場への還元にも大きな貢献をもたらすことと期待される。
高橋 健造	琉球大学大学院医学研究科皮膚病態制御学講座准教授	表皮組織の創傷治癒過程における角化細胞の活性化・脱分化などに関する研究を行っており、この研究は臨床研究においても極めて重要な意義を持っている。また難治性皮膚角化症、特にダリエー病の治療薬の探索に着手し、近い将来の臨床応用を見据えた創薬研究を進めている。

平成23年度

氏 名	所 属	受 賞 理 由
要 匡	琉球大学大学院医学研究科遺伝医学講座准教授	これまで一貫して遺伝子疾患の原因、病態、治療研究に携わり、その研究は、関連学会で高い評価を受けいる。その研究の成果の一つとして、オピッツ三角頭蓋症候群（C症候群）の原因を世界で初めて特定した。その他原因遺伝子解析や遺伝子機能解析研究などで成果をあげている。
安 隆則	琉球大学大学院医学研究科循環器・腎臓・神経内科学講座准教授	心臓血管リハビリテーションと微小循環に関するさまざまな臨床的および基礎的研究において成果をあげており、血管内皮や微小循環に関する臨床薬理学的研究を進めると共に、治療法の妥当性を評価するためのデザイン、生物統計、人材の育成など研究基盤の構築についても研鑽を積んでいる。

平成24年度

氏 名	所 属	受 賞 理 由
知念 寛	琉球大学医学部附属病院光学医療診療部医員	消化器領域における研究業績は、国際的水準に達しており多くの専門機関誌に掲載され、国内外においても高く評価されている。また氏の研究は病因を明らかにするのみならず、常に臨床応用の研究を目指しており、基礎免疫学的にも、臨床消化器病学的にも意義の高い研究を行っている。
岡部 明仁	琉球大学大学院医学研究科分子解剖学講座准教授	抑制性神経伝達物質としてのGABAが、発達段階初期には興奮性に働くことを発見し、その役割以外に神経細胞の移動、分化、再生などに関与することを示唆し、GABAに対する新しい概念を付け加えた。このことは、再生医学の分野において、重要な発見であり、基礎医学及び臨床的にも意義あるものである。
喜名振一郎	琉球大学大学院医学研究科顎顔面口腔機能再建学講座助教	臨床医学に対する基礎研究の応用という視点で研究に取り組んでおり、その中でも活性酸素が癌の進展に関与するメカニズムを検討する過程で、活性酸素依存的な受容体型チロシンキナーゼの活性化が、活性酸素による細胞癌化、癌の進展に深く関わっている事を報告している。癌治療を展開するうえで臨床上重要な研究を行っている。

平成25年度

氏 名	所 属	受 賞 理 由
藤猪 英樹	琉球大学大学院医学研究科免疫学講座准教授	新たなワクチンの開発、現行ワクチンの問題点の解明、さらにHIV感染での免疫抑制の科学的証明、そして「ナチュラルヘルパー細胞」の発見と、感染免疫研究において世界的に強烈なインパクトを与えている。琉球大学赴任後は沖縄に多いHTLV-1感染についてキャリアから発症に至る段階を阻止するワクチン開発を目指している点は、本県の医療に大きく貢献できると期待される。
當銘 保則	琉球大学医学部附属病院整形外科医員	海外、国内留学の中で蛍光腫瘍細胞の研究や、マイクロRAN解析と蛍光イメージングを組み合わせた先進的研究技術を習得し、現在は臨床に従事しながら非常に興味ある研究を推し進めている。研究内容も革新的、独創的で今後更なる発展と臨床への応用が期待できる。業績にも見るべきものがありさらに勢いを感じる。

平成26年度

氏 名	所 属	受 賞 理 由
外間 昭	琉球大学医学部附属病院光学医療診療部准教授・部長	自己免疫性慢性腸炎と細菌性腸炎の発症機構の解明に大きな成果を達成し、とりわけ自己免疫性慢性腸炎の発症の根幹をなす自己抗原galectin-4の発見は画期的であり、世界的に高く評価された。また細菌性腸炎の研究では腸管病原菌のAeromonas属の4種類の線毛を分離精製し、それらが腸管への定着を担う病原因子であることを初めて明らかにした。この研究の学問的意義は大きい。
杉本 潤	琉球大学大学院医学研究科ゲノム医学講座准教授	ヒト内在性レトロウイルス（HERV）の研究において変異や欠失等によって化石化した夥しい数のHERVsの中から転写活性を有するHERVを複数同定した。シンシチンの細胞融合活性を抑制する新規HERVのenv由来蛋白、サプレシンを発見しHERV研究の新しい局面を展開している。本研究解析により、新たな治療法の開発にも貢献できる可能性が高い。

平成27年度

氏 名	所 属	受 賞 理 由
作道章一	琉球大学医学部保健学科生体代謝学分野准教授	ガスプラズマによる医療器具の殺菌消毒技術の開発を中心に研究を行っており、この技術を用いてウイルスや細菌などの病原体の不活化や毒素の分解に成功した。またガスプラズマの作用機序を明らかにして、各種ウイルスや細菌の不活化条件の最適化を可能にした。これらにより、殺菌消毒技術としての実用化が着実に加速された。さらには、食品の殺菌消毒にも本技術を応用し「食品のプラズマ殺菌」という新しい分野の構築にも貢献した。
岡田真広	琉球大学医学部附属病院放射線科診療准教授	主たる研究分野は、肝臓の腫瘍や肝実質のCT、MR、超音波診断であり、国内他施設との共同研究をはじめ、オリジナリティーの高い研究を継続して行っている。特に、近畿大学での肝細胞癌の画像診断の研究は世界的な仕事となっている。今後画像診断医として、研究、診療、教育に携わり、多くの患者から得られた知識や研究結果から、新たな肝細胞癌の画像診断を開拓し、国内におけるトップランナーとして努力を続けていくであろう。

平成28年度

氏 名	所 属	受 賞 理 由
原永修作	琉球大学医学部附属病院第一内科診療准教授	基礎研究としてのクラミジアの感染モデル作成から、臨床研究としてレジオネラの治療法の検討、重症インフルエンザやアスペルギルスなどの呼吸器感染症の解析、新しい呼吸器内視鏡手技である嚢胞ドレーナージ術の確立まで呼吸器・感染症の分野において幅広い業績を残している。学会においても、シンポジストやパネリストを務め新しいガイドラインのレビューに任命されエビデンスの構築にも貢献している。
平安名常一	琉球大学医学部附属病院放射線部副部長	放射線治療とIVR手技を融合した総合的な治療の報告を精力的に行っており、難治性頭頸部癌の根治治療から再発癌に対する緩和治療まで幅広い臨床研究を行い、多数の学会報告を行っている。放射線治療学・IVR・核医学領域において腫瘍学に卓越した研究を展開し評価を受けている。

平成29年度

氏 名	所 属	受 賞 理 由
森島聡子	琉球大学大学院医学研究科内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座准教授	血液内科を基盤として同種造血幹細胞移植におけるヒト組織的適合性抗原（HLA）の意義及びウイルスが関与する悪性腫瘍における免疫学的研究の成果を国際学会及び国内学会のシンポジウムで発表して論文化するなど本研究分野での世界的な第一人者として活躍している。造血幹細胞移植とHLAの研究では我が国の移植グループのHLAに関する研究チームの重要メンバーとなっており、さらに国際組織適合性ワークショップの一員として海外の研究者とも共同研究を始めるなど精力的に取り組んでいる。
伊良波裕子	琉球大学医学部附属病院放射線科診療講師	平成26年度に婦人科悪性腫瘍におけるPET-CTの有用性における研究内容が国際的に主要な学会である北米放射線学会（RSNA）に採択された。また平成27年度には婦人科救急疾患のCT/MR画像診断に関する総説がRSNAに採択され、学会賞を受賞した。この論文は学術的にも臨床的にも非常に重要度の高い内容である。沖縄県の画像診断分野に関して今後も継続的発展に貢献することが期待される。

平成30年度

氏 名	所 属	受 賞 理 由
山城 恒雄	琉球大学医学部附属病院放射線科講師	慢性閉塞性肺疾患（COPD）のCT画像の研究、沖縄県に特に罹患者の多いHTLV-1及び成人T細胞白血病・リンパ腫（ATL）の胸部CTの研究等で多くの英論文を執筆・出版し、胸部画像診断の領域で多種多様な業績を上げている。特に320列CTを用いた自由呼吸下の4次元胸部CT「呼吸ダイナミックCT」の研究においては、日本医学放射線学会や国際呼吸機能イメージングワークショップ等からの複数の受賞歴があり、国内外から高い評価を受けている。同時に肺癌の癒着・浸潤診断などその臨床的実用性の確立にも多くの功績がある。
金城 武士	琉球大学大学院医学研究科感染症・呼吸器・消化器内科学講座助教	呼吸器内科医として呼吸器疾患の診断・治療に携わり、また米国国立がん研究所への留学で培った経験により、主としてmultiplex PCRという手法を用いて広汎な臨床研究を展開しており、かつそれを多くの英文論文として公表している。また沖縄県内の様々な医療機関から呼吸器感染症診断の依頼を受けるなど、本県の感染症診療に大きく貢献している。そして、病原体が不明な検体については大阪大学微生物研究所とも連携し、メタゲノム解析まで実施しうる体制を構築しており今後の研究のさらなる発展が期待できる。

平成31年度

氏 名	所 属	受 賞 理 由
岡本 士毅	琉球大学大学院医学研究科内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座助教	氏は、食物に含まれる個々の栄養素による摂食制御機構に着目し、炭水化物の必要性を感知して炭水化物の摂取を促す嗜好性中枢が脳に存在することを世界で初めて見出した。そのことにより炭水化物に対する嗜好性が亢進すれば、脂肪に対する嗜好性を抑制し、肥満症や糖尿病の予防、進展阻止の画期的治療に結び付くことを発見した。この研究は栄養素ごとの摂取量を巧みに制御し、摂食行動を調節する脳内分子機構の研究領域において大変注目されている。またこの研究は、高脂肪食が根付いてしまった沖縄県の健康長寿崩壊の改善に資する画期的な研究結果をもたらすものと期待できる。

令和2年度

氏 名	所 属	受 賞 理 由
桂 守弘	沖縄県立中部病院外科医長	外傷研究として小児肝脾損傷研究について、長年取り組んでおり、沖縄県内の各施設から自ら汗を流してデータを収集し、解析、論文化し、沖縄県外科会にて発表し最優秀賞を受賞している。またこの研究は、日本外傷学会の多施設臨床研究支援事業にも採択され、今後の研究成果を沖縄から世界へ発信するものと大いに期待できる。
東恩納美樹	琉球大学医学部保健学科成人老年看護学講座老年看護学分野助教（講師学内）	患者の安全という視点で看護実践と患者アウトカムの関連を科学的に検証し、看護の成果を可視化する研究を行っており、世界的にも知名度のある雑誌に論文を掲載し高い評価を得ている。日本の看護実践研究の国際発信を看護学の発展への貢献と捉え、国際学術誌への論文投稿、国際学会発表に取り組み努力を重ねている。看護学のさらなる発展に寄与するものと期待される。

令和3年度

氏 名	所 属	受 賞 理 由
嘉手川豪心	沖縄協同病院泌尿器科部長	排尿障害の基礎研究及び臨床研究に長年取り組んでおり、2020年には「間質性膀胱炎の病態解明」に関して日本排尿機能学会の学会賞を受賞。脊椎損傷ラットにおいて膀胱内の神経成長因子を抑制することで自律神経過反射が抑制されることを世界で初めて見いだした。間質性膀胱炎患者の遺伝的多様性を解析・比較することにより高リスク患者への早期介入、予防や治療につなげていくことが可能となり、臨床的意義も非常に高く、今後の研究発展が期待される。

令和4年度

氏 名	所 属	受 賞 理 由
平川 仁	琉球大学病院・耳鼻咽喉科・頭頸部外科講師	耳鼻咽喉科領域の中でも頭頸部がんの解析に取り組み、頭頸部癌術後感染症の解析、化学療法感受性と遺伝子多型、口腔癌、鼻副鼻腔がんのサルベージ手術の成績に関する因子解析など多方面の研究を行っている。これらの論文業績は引用も多くインパクトファクターだけでなく研究者としての評価も高い。日本頭頸部癌学会の優秀論文賞、国際学会での優秀発表賞なども獲得している。診療活動では、頭頸部がん患者の筆頭術者として多くの難治症例の手術を行っている。
仲村 秀太	琉球大学大学院医学研究科感染症・呼吸器・消化器内科学講座助教	呼吸器感染症の重症化機構の解明をテーマに一貫して臨床と研究に取り組んでおり、琉球大学病院のHIV診療およびCOVID-19診療の中心的人物として活躍し、院内の治療指針マニュアルを作成するなど、院内全体の診療レベルの底上げに貢献した。またCOVID-19感染拡大による患者対応の多忙の中、重症COVID-19の病態解明に関連した報告を行うなどその学問的意義及び臨床的重要性は、極めて高く評価されている。

令和5年度

氏 名	所 属	受 賞 理 由
鍋谷大二郎	琉球大学第一内科医員	感染対策と臨床医学の分野で非常に優れた業績を積み重ねてきており、RSウイルスに関する研究は、院内感染のメカニズムを明らかにし、感染症対策に影響を与えた。また、気管支鏡検体を用いた研究により呼吸器ウイルス感染の病態解明に重要な貢献をしている。その業績は学問的な意義と臨床的な重要性の双方で高く評価されており本県におけるウイルス分野の発展と患者ケアの向上に貢献し、今後もさらなる進展が期待される。

研究助成

昭和62年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
乗松 尋道	琉球大学医学部 整形外科学助教授	沖縄在住女性老人の骨塩量と骨折との関連性	20万円
稲福 薫	琉球大学医学部 産婦人科学助手	内視鏡による子宮内膜前癌病変の診断	20万円
楠本 昌子	琉球大学医学部 保健学科助教授	沖縄県における職業的環境曝露リスクならびに健康障害の評価に関する研究ー自動車整備作業の場合ー	20万円

昭和63年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
安斉 俊一	琉球大学医学部 ウイルス学助手	沖縄県一亜熱帯地域一における日本脳炎ウイルスの生態学的研究	20万円
佐藤 良也	琉球大学医学部 寄生虫学教授	間接凝集反応による糞線虫症診断法に関する研究	20万円
中村 哲	琉球大学医学部 細菌学助手	コレラ菌病原因子抗原を認識するモノクローナル抗体の確立とその応用	20万円

平成元年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
梶原 正弘	琉球大学医学部 法医学助手	個人識別に関する研究ー沖縄県における血清タンパクPi型の遺伝子頻度ー	20万円
只野 昌之	琉球大学医学部 ウイルス学助手	1989年に沖縄県で流行した無菌性髄膜炎の調査ー原因ウイルスの同定と血清疫学ー	20万円
中村真理子	琉球大学医学部 生理学第一助手	ハブ毒由来トロンビン様酵素のモノクローナル抗体作製とその応用	20万円

平成2年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
新垣 栄	琉球大学医学部 ウイルス学大学院生	遺伝子組換え技術により作成した抗原を用いたデングウイルス感染症の血清学的診断法	20万円
小倉 秀章	琉球大学医学部 泌尿器科学大学院生	尿中上皮成長因子の泌尿器科手術前後におきる動態とその意義	20万円
野原 敦	琉球大学医学部附属病院 高気圧治療部技官	急速減圧ラットにおける中枢神経系の変化	20万円

平成3年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
大嶺 雅亮	県立宮古病院附属 多良間診療所	離島診療所における連絡手段としての無線電話の利用について	20万円
久田 友治	国立療養所沖縄病院 外科	抗癌剤感受性試験MTTアッセイの臨床的評価特に肺癌について	20万円
當眞 弘	琉球大学医学部 寄生虫学助手	糞線虫症の駆虫効果に及ぼすATLウイルス混合感染の影響について	20万円
中村 信之	県立中部病院 泌尿器科	沖縄県中部地区におけるフィラリア性乳糜尿症と成人T細胞白血病ウイルス感染および糞線虫症の疫学的研究	20万円

平成4年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
伊佐 真徳	琉球大学医学部 整形外科学助手	青年期女性の骨塩量の検討	20万円
鯉淵 浩	琉球大学医学部 眼科学大学院生	沖縄県民の眼球形態	20万円
仲俣 明夫	琉球大学医学部 精神神経科学助手	沖縄県家庭支援相談事業にみられる児童・思春期精神医学的問題の実態調査	20万円

平成5年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
宮国 孝男	仲本病院 外科	ラット肝移植における胆汁中サイトカインの検討	20万円
安次嶺郁哉	琉球大学医学部 地域医療部技官	老人医療の動向把握と老人医療費高騰要因分析 ー沖縄本島一村及び離島一村への試みー	20万円
本馬 恭子	琉球大学医学部 細菌学助手	コレラ菌線毛の遺伝子解析	20万円

平成6年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
平安 恒男	琉球大学医学部 第二外科学大学院生	沖縄県における肺扁平上皮癌の病理発生について	20万円
古閑比佐志	琉球大学医学部 脳神経外科学助手	脳原発悪性リンパ腫の p 53 癌抑制遺伝	20万円

平成7年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
武田富美子	琉球大学医学部 保健学科助手	室内塵中のダニと喘息患者の症状との関係	20万円
比嘉 聡	琉球大学医学部 第二内科学助手	甲状腺ホルモンの冠動脈血管内皮細胞機能におよぼす影響	20万円
向山 秀樹	琉球大学医学部 泌尿器科学助手	腎細胞癌に対する特異的細胞障害T-細胞誘導の基礎的検討	20万円

平成8年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
大城 吉則	ハートライフ病院 泌尿器科	臓器移植のための特異的免疫抑制法の基礎的研究	20万円
前田 紀子	琉球大学医学部 第一生化学助手	鶏サーフェイト領域の研究	20万円
赤嶺 浩三	琉球大学医学部 第二内科学助手	Human T-Lymphotropic virus type 1 (HTLV-1) 感染による自己 免疫性甲状腺疾患 (橋本氏病、バセドウ病) 発症機構の解明	20万円
瀧上 竜也	琉球大学医学部 麻酔科学助手	一過性脊髄虚血後神経学的機能及び脊髄でのグルタミン酸放出 と活性酸素発生に及ぼすMK-801 (NMDA受容体拮抗薬) の影響	20万円

平成9年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
大湾 一郎	琉球大学医学部 整形外科学助手	骨粗鬆症の病態解明ー骨における機械的刺激の役割ー	20万円
島袋 泰	琉球大学医学部 麻酔科学助手	一過性脊髄虚血後の神経障害に対するAdenosine Receptorの役割	20万円
トーマ・ クラウドニア	琉球大学医学部 細菌学助手	コレラ菌の腸上皮定着機構	10万円
西島さおり	琉球大学医学部 保健学科大学院生	腎細胞癌に対する免疫応答基礎研究	10万円

平成10年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
新川 武	琉球大学医学部 寄生虫学助手	トランスジェニック植物によるマラリアに対する経口ワクチン の開発に関する研究	20万円
米田 恵寿	琉球大学医学部 第二内科学大学院生	甲状腺ホルモンと心・血管	20万円
大湾 知子	琉球大学医学部 保健学科講師	沖縄県における尿失禁看護マニュアルに関する研究	20万円

平成11年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
馬場 英司	琉球大学医学部沖縄アジア 医学研究センター助教授	ヒト可溶性OX40 リガンド-免疫グロブリン融合蛋白の作製	20万円
勝連 啓介	琉球大学医学部 小児科学助手	ACAT-2 遺伝子変異と小児期の生活習慣病との関連について	20万円
山城 啓	琉球大学医学部 第二内科学助手	高感度TSAb（甲状腺刺激抗体）活性測定法の開発とその応用	20万円

平成12年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
宮城 淳	琉球大学医学部 第二病理学大学院生	沖縄県肺癌の予後とヒトパピローマウイルスの感染	20万円
ライハンズバイル ホサイン	琉球大学医学部 泌尿器科学大学院生	Basic research of urolithiasis based on clinical findings in Okinawa	20万円
武居 公子	琉球大学医学部 第二生化学助手	沖縄県における皮膚悪性腫瘍の解析	20万円
高良 武博	琉球大学医学部 保健学科助手	看護行為からみた手指の経時的汚染状況と効果的な手洗いに 関する研究	20万円
上地 珠代	琉球大学医学部 第一生化学大学院生	X連鎖するリボソームタンパク質遺伝子と疾患：遺伝子量補正と 選択的な発現調節機構	20万円

平成13年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
金城 祥乃	琉球大学医学部 第二内科学大学院生	甲状腺自己免疫疾患の病因、寛解指標の解明とその応用	20万円
高橋 良明	琉大医学部附属沖縄アジア医学研 究センター感染免疫学客員研究員	HTLVおよびHIV感染症のための基礎研究	20万円
船附美奈子	琉球大学医学部 保健学科大学院生	出産体験満足度と産後3ヶ月までの育児不安との関連	20万円

平成14年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
米納 浩幸	琉球大学医学部 附属病院泌尿器科助手	前立腺がんの造骨性骨転移における病理形態の経時的検討	30万円
池間 朋己	琉球大学医学部 第二内科学大学院生	沖縄県人における糖尿病関連遺伝子の検討	30万円

平成15年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
仁村 文和	琉球大学大学院医学研究科 免疫学分野大学院生	ヒトウイルス感染症および悪性癌の防御的免疫応答をシミュレーションする新た な動物モデルの開発	30万円
宮里 実	琉球大学医学部器官病態医科学 泌尿器科学分野研究生	閉塞膀胱モデルラットにおける膀胱平滑筋細胞間結合（gap junction） と膀胱の活動性に関する薬理学的・分子生物学的研究	30万円
高良 正樹	琉球大学医学部附属病院 第二内科助手	バセドウ病発症、寛解とCTLA-4, IgE, RANTES－沖縄県人での特殊性	30万円

平成16年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
呉屋 真人	新村病院 泌尿器科	前立腺癌骨転移機構の解明と治療法の開発	30万円
當真 武	琉球大学医学部器官病態医科学 講座内分泌代謝内科学分野助手	沖縄県人バセドウ病患者の原因抗体の分離解析法の開発	30万円

平成17年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
内原潤之介	琉球大学医学部器官病態医科学 講座内分泌代謝内科学分野助手	成人T細胞白血病におけるDAP-kinase遺伝子のメチル化の検討および 脱メチル化剤を用いた新規治療法の開発	30万円
前田 浩之	国立がんセンター研究所所臨 床腫瘍病理部リサーチ・レジデ ント	前立腺がん (P Ca) のchemokine receptorの発現と骨転移の有無	30万円

平成18年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
奥平多恵子	琉球大学医学部附属病院 第二内科医員	沖縄県における急性白血病の疫学的、臨床・病理学的検討および急性 骨髄性白血病の予後解析、予後因子の同定	30万円
池原 在	国立がんセンター東病院臨床開 発センター臨床腫瘍病理部リサー チ・レジデント	前立腺がん組織中へのマクロファージ浸潤、chemokine発現と臨床病理 学的所見との関係	30万円
鄭 奎 城	琉球大学医学部医学科 環境生態医学分野助手	中高年成人肥満における遠赤外線温熱療法の脂質代謝、酸化ストレス に与える影響	10万円
李 長 春	琉球大学遺伝子実験センター感 染免疫制御分野ポスドク研究員	マラリア感染防御と病態形成におけるマクロファージ由来液性因子にお ける免疫応答制御	10万円

平成19年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
木村 太一	国立がんセンター東病院臨床開 発センター臨床腫瘍病理部リサー チ・レジデント	前立腺がん骨転移に対する治療ヒト成人骨移植モデルマウスを用いた前 立腺がん骨転移に対する抗 I G F II 中和抗体の抗腫瘍効果についての検 討	30万円
吉田 朝秀	琉球大学医学部附属病院周産母 子センター助教	「新生児期および小児期における動脈壁硬化度とアディポネクチンの関 連解析」についての研究	10万円
牧志 祥子	琉球大学医学部附属病院歯科口 腔外科助教	口腔癌 (Stage I、II) における免疫組織化学的・臨床病理学的検討	10万円
豊里 竹彦	琉球大学医学部保健学科助教	地域高齢者の唾液中ストレス関連物質free-MHPGと精神健康及び性格特 性との関連について	10万円

平成20年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
石川 千恵	琉球大学亜熱帯島嶼科学超域研 究推進機構特命助教	遺伝子編集酵素AIDの成人T細胞白血病・リンパ腫発症への関与	30万円
屋比久浩市	琉球大学医学部附属病院第二内 科医員	沖縄県民の脂肪肝 (NAFLD) におけるインスリン抵抗性改善薬の機序― 「炎症」との関連解明	15万円
山内 恵	琉球大学医学部附属病院検査部 主任臨床検査技師	可溶性フィブリンモノマー複合体を用いた沖縄県肥満者における血液凝 固亢進の評価	15万円

平成21年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
武嶋恵理子	琉球大学大学院医学研究科病原 生物学分野特命助教	新規ヘリコバクター・ピロリ関連胃疾患責任分子カベオリン	30万円
渡嘉敷良乃	琉球大学医学部附属病院検査部 臨床検査技師	生育活性蛍光プローブを用いた抗真菌薬感受性試験の開発	15万円
喜名振一郎	琉球大学医学部高次機能医科学 講座顎顔面口腔機能再建学分野 助教	HPV陽性上皮細胞の活性酸素感受性	15万円
今泉 直樹	琉球大学医学部保健学科分子 遺伝学教室助教	沖縄産薬草のアルコール性肝障害軽減作用の検討	10万円

平成22年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
小塚智沙代	琉球大学大学院医学研究科内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座大学院生	食の乱れに注目した肥満2型糖尿病の新規治療モードの開発	30万円
又吉 宣	琉球大学医学部附属病院耳鼻咽喉科医員	喉頭扁平上皮癌細胞におけるリゾフォスファチジン酸受容体LPAR4の役割	30万円

平成23年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
門田 英輝	沖縄県立中部病院形成外科医師	Infrahyoid myofascial flapを用いたフライ症候群および耳下部陥凹の予防法に関する研究	30万円
池田あかね	かりゆし病院 リハビリテーション科 言語聴覚士	離島における地域連携型N S T、摂食・嚥下機能療法、口腔ケア活動による医学的效果ならびに医療経済的效果についての検討	30万円

平成24年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
平良 清人	琉球大学医学部附属病院皮膚科講師	沖縄に高頻発する頭部血管肉腫の原因ウイルスの探索	30万円
作道 章一	琉球大学医学部保健学科生体検査学講座生体代謝学分野准教授	近赤外分光法を用いた臨床検査技術の開発	30万円

平成25年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
鄧 澤 義	琉球大学大学院医学研究科耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座助教	ヒト乳頭腫ウイルス感染を背景にした沖縄県の頭頸部癌解析	30万円
喜名 美香	琉球大学大学院医学研究科薬理学講座大学院生	食餌中NOxの不足によるメタボリックシンドローム発症機構の解明	30万円

平成26年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
玉城研太郎	那覇西クリニック診療部長	沖縄県における生活習慣病がもたらす血管新生や腫瘍免疫を含めた腫瘍環境と癌発生の研究	20万円
栗澤 遼子	琉球大学大学院医学研究科皮膚病態制御学講座大学院生	宮古島でカボジ肉腫が高発生する原因解明のための疫学的・ウイルス学的解析	20万円

平成27年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
金 正泰	琉球大学大学院医学研究科分子解剖学講座特命助教	GABA関連遺伝子改変マウスを用いた慢性疼痛動物モデル作製及びGABA機能解析	20万円
石田 昌義	琉球大学医学部再生医療研究センター特命助教	脂肪由来幹細胞を用いた新たなメタボリックシンドロームの制御方法の開発	20万円

平成28年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
西 由希子	琉球大学大学院医学研究科内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座大学院生	脂肪組織由来間葉系幹細胞のGVHDへの有効性	20万円
森近 一穂	琉球大学大学院医学研究科内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座非常勤講師	成人T細胞性白血病におけるJAK-STAT経路と臨床病理学的所見の関連及び予後指標の確立	20万円

平成29年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
金城 秀俊	琉球大学大学院医学研究科耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座医員	ヒト乳頭腫ウイルスにおける感染組織特異性の解明：VLPを用いたHPV受容体の探索	20万円
鍋谷大二郎	琉球大学大学院医学研究科感染症・呼吸器・消化器内科学講座医員	成人血液内科病棟におけるRSウイルスアウトブレイクの臨床的検討と遺伝子系統樹解析	20万円

平成30年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
大平 葵	琉球大学大学院医学研究科皮膚病態制御学講座大学院生	沖縄県に多発する頭部血管肉腫の予後因子の探索	20万円
ヘルマワン イダム	琉球大学大学院医学研究科細菌学講座技術補佐員	沖縄県における土壌からの病原性レプトスピラの分離	20万円

平成31年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
木村 隆	琉球大学医学部医学科腎泌尿器外科助教	糖尿病における排尿障害メカニズムの解明と磁気刺激神経調整的新システムの確立	20万円
玉城 啓太	琉球大学大学院医学研究科内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座非常勤講師	成人T細胞白血病リンパ腫におけるHLA class Ib 分子の病態的意義の解明	20万円

令和2年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
大嶺 卓也	琉球大学大学院医学研究科皮膚科学講座大学院生	沖縄県に多発する化膿性汗腺炎に生じる線維化や疼痛の理解と治療標的の網羅的探索	20万円
上條 中庸	琉球大学大学院医学研究科システム生理学講座助教	母子隔離ストレスによる脳内可塑性変化と下部尿路機能障害発症機序の解明	20万円

令和3年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
ミルマン ジャスミン フランシス	琉球大学大学院医学研究科内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座ポスドク研究員	エクストラバージンオリーブオイルによる新規の老化関連障害予防メカニズムの解析	20万円
栗山 和志	琉球大学大学院医学研究科ウイルス学講座大学院生	宮古島固有のカポジ肉腫関連ヘルペスウイルスがコードする変異遺伝子の機能解析	20万円

令和4年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
玉城 智子	琉球大学大学院医学研究科腫瘍病理学講座大学院生	成人T細胞白血病・リンパ腫（ATLL）の病理組織学的形態および免疫表現型に関する検討	20万円
西山 直哉	琉球大学病院感染対策室・医員	沖縄県におけるペニシリン低感受性B群レンサ球菌の分子疫学的調査	20万円

令和5年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
宮城 良浩	琉球大学病院消化器・腫瘍外科助教	排便障害ラットモデルにおける多層化脂肪幹細胞シートを用いた排便障害改善に関する研究	20万円

特別若手研究助成

平成5年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
寺田 幸平	琉球大学医学部 脳神経外科学助手	遷延性意識障害に対する脊髄電気刺激の基礎的研究	10万円

平成6年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
廣安 俊吾	自衛隊那覇病院 外科	ラット小腸移植におけるGraft-Versus-Host Disease (GVHD) に対するインターロイキン1レセプターアンタゴニスト (IL-1 r a) の効果	10万円

平成7年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
小田 正美	琉球大学医学部 泌尿器科学助手	慢性腎不全患者の皮膚色素沈着に及ぼす透析条件の客観的評価	10万円

平成8年度

該当者なし

平成9年度

該当者なし

平成10年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
馬 紹平	琉球大学医学部 ウイルス学助手	C型肝炎ウイルスとデングウイルスのキメラ作成	10万円
中村 清哉	琉球大学医学部 麻酔科学大学院生	一過性脊髄虚血後にクモ膜下モルヒネ投与によって誘発される痙攣性対麻痺の発現機序に関する研究	10万円

平成11年度

該当者なし

平成12年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
上江洲香織	琉球大学医学部 内科学第一大学院生	結核感染防御とサイトカイン	10万円

平成13年度

氏 名	所 属	研 究 課 題	助成額
上地玄一郎	琉球大学医学部 寄生虫学大学院生	フサウンバチイソギンチャク毒の健康被害に関する研究	10万円

最新医療技術の調査研修への助成

平成12年度

氏 名	所 属	研究テーマ	助成額
秦野 直	琉球大学医学部泌尿器科学講座助教授	前立腺癌の凍結療法	10万円

平成13年度

氏 名	所 属	研究テーマ	助成額
石田 昭彦	琉球大学医学部解剖学第二講座助手	遺伝子治療用ベクターの生産システムの技術習得	10万円

平成14年度

氏 名	所 属	研究テーマ	助成額
村上 努	琉球大学医学部附属沖縄アジア医学研究センター講師	抗H I V薬剤開発のための基礎的研究	10万円

平成15年度

氏 名	所 属	研究テーマ	助成額
ライハン Z ホサイン	琉球大学医学部泌尿器科学講座大学院生	前立腺における近距離照射治療法の習得	10万円
酒々井 真澄	琉球大学医学部病態解析医科学講座腫瘍病理学分野助教授	遠隔病理診断システムの開発と実施	10万円

平成16年度

氏 名	所 属	研究テーマ	助成額
大城 吉則	琉球大学医学部泌尿器科学講座助手	米国における泌尿器科領域での鏡視下手術の現状について	20万円

平成17年度

氏 名	所 属	研究テーマ	助成額
宮里 実	国立療養所沖縄愛楽園厚生労働技官泌尿器科医師	小児泌尿器科領域における骨髄幹細胞移植と臓器機能再生への応用	20万円

沖縄アジア諸国の共同研究と交流への助成

平成18年度

日本側受入研究者	アジア側研究者	研究テーマ	助成金
外 間 実 裕 (琉球大学医学部講師)	ヤワラトラジェットグル (タイ留学生)	ビタミンB6欠乏ラットにおけるシュウ酸前駆物投与による内因性シュウ酸産生の比較に関する研究	20万円

平成19年度

日本側受入研究者	アジア側研究者	研究テーマ	助成金
加 藤 誠 也 (琉球大学医学部教授)	ハラウアフタウケイアホ マタホラウ (トンガ留学生)	血管平滑筋細胞の炎症型形質発現に関する研究	10万円
外 間 実 裕 (琉球大学医学部講師)	チャチャイヤチャンタ (タイ留学生)	カリウム欠乏ラットとビタミンB6欠乏ラットにおけるシュウ酸前駆物投与による内因性シュウ酸産生の比較に関する研究	10万円

平成20年度

日本側受入研究者	アジア側研究者	研究テーマ	助成金
仲宗根 敏 幸 (琉球大学医学部助教)	梁 飛新 (中国留学生)	ヒトパピローマウイルス (HPV) の口腔癌発症への関与の検討 (中国と沖縄県の比較検討)	20万円

2. 学会、研究集会等に対する助成事業

令和5年度 医科学関連の学会、学術集会への助成

助成なし

令和5年度 医科学関連の研究組織、機関への助成

助成対象団体	活 動 内 容	助成金額(円)
保養・医学研究室	1. 県内の健康保養型観光産業における人材育成、特に海洋療法分野に関する研究・教育を行う2. 県内災害医療関係者に対する災害医療の講習等の教育活動を継続して行う3. 特殊災害であるCBRNE災害医療に対する調査研究・啓蒙を行う4. ツール・ド・おきなわの医療救護体制を推進する5. 災害医療や防災に関する訓練に参画し、災害医療構築のための研究活動を進める6. 本県で開かれる大規模イベントに対するマシギャザリング・メディシンならびに新型コロナウイルス感染症対策に寄与する活動、研究、啓蒙を行う7. これまでに取り組んできた災害医療に関する活動を活かして、沖縄県新型コロナウイルス感染症対策本部総括情報部における医療コーディネーター活動を推進する。	200,000
沖縄県臨床研究グループ「大きな輪」	沖縄県臨床研究グループ「大きな輪」は、不特定多数の市民に対して医学に関する高度な技術や情報提供を行うために、医療研究者による臨床研究事業や研究開発支援等を行いより良い医療の発展に寄与することを目的とするグループである。また、沖縄県における多施設共同臨床研究、及び疫学調査を実施する。 活動内容として沖縄県における気管支喘息死0作戦に対する支援、呼吸器感染症の遺伝子診断に関する臨床研究とその結果発表、消化管感染症の遺伝子診断に関する臨床研究とその結果発表、沖縄県における侵襲性感染症の疫学的研究、症例登録、各種図書の出版、市民公開講座の開催。	4,800,000
沖縄内分泌代謝疾患研究会	沖縄県における医学・医療水準の向上と最新の医学・医療情報の啓発を通して、沖縄県民の医療福祉の向上と健康長寿復興に貢献する。内分泌・代謝疾患（特に糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症、肥満症、副腎疾患、脳下垂体疾患、動脈硬化性疾患）を中心として、加えて、沖縄県に多い成人T細胞白血病・リンパ腫などの血液疾患や膠原病・リウマチ疾患に関する基礎的・臨床的研究を推進し、新たな研究成果を国内外の医学雑誌、および学会や研究会で発信し、沖縄県における医学・医療水準の向上を目指す。また、最新の医学情報を沖縄県の医学研究者や医療従事者、一般県民と共有化する機会を積極的に設け、沖縄県民の医療福祉の向上と健康長寿復興に貢献することを目指す。	7,300,000

助成対象団体	活 動 内 容	助成金額(円)
うちなー消化器うまん ちゅぬ会	沖縄県臨床研究グループである「うちなー消化器うまんちゅぬ会」は、不特定多数の人民に対して医学に関する高度な技術や情報提供を行うために、医療研究者による臨床研究事業や研究開発支援等を行い、より良い医療の発展に寄与することを目的とすグループである。活動内容としてはⅠ. 消化器関連講演会を企画。Ⅱ. 県内症例検討会の開催の援助。Ⅲ. 他県の医師との学術交流Ⅳ. 若手医師の育成における支援。Ⅴ. 学術集会支援を行う。	360,000
沖縄医学教育・臨床研 修・地域医療研究会	沖縄県の医学教育や臨床研修指導にかかわる医師・医学教育者およびその関係者で作る本研究会は、離島へき地を含めた不特定多数の県民に対して、良質な医療を提供するために、その育成に係る、医師及び医療関係教育者による教育や臨床研修、及びその研究活動を支援し、またそれらの教育活動を介して医学生、研修医、医療系学生、医療系研修生の学習を支援することで、地域医療の充実、ひいては県民全体の健康保持・増進に貢献することを目的としている。活動内容としては、医学教育と臨床研修に関する研究活動、医学教育や臨床研修を行う指導者の育成及びその指導の支援活動、地域医療の充実に関する教育、研修、研究の支援活動、研究会、講習会などの開催支援事業等。	5,088,535

3. 知識の普及及び啓発事業

市民公開講座の開催

日 時：令和5年9月16日（土）午後2時～4時

場 所：パシフィックホテル沖縄

参加者：37名

テーマ：最先端医療はここまできている

講 師：古川浩二郎（琉球大学大学院医学研究科胸部心臓血管外科学講座教授）

「心臓血管外科の最前線」

宮里 実（琉球大学大学院医学研究科システム生理学講座教授）

「排尿研究の最先端と最南端～おしっこで健康管理の極意をおしえます」

市民公開講座への助成

平成13年度

団 体 名	公開講座のテーマ	助成額
琉球大学医学部泌尿器科学講座	豊かな中高年を迎えるために ー生活に役立つ泌尿器科ー	10万円
（社）日本糖尿病協会沖縄県支部	第37回全国糖尿病週間関連行事 「糖尿病患者さんの自己管理」 「快適な生活を送るための上手な外食の摂り方」	10万円
琉球大学医学部保健学科保健医療学講座	実践にいかす高齢者の介護	10万円

平成14年度

団 体 名	公開講座のテーマ	助成額
第52回日本体質医学会	生活習慣病の体質	10万円
琉球大学医学部泌尿器科学講座	更年期の泌尿器科ー尿がもれる、尿の勢が悪い、トイレが間に合わないそのすべてを解説ー	10万円

平成15年度

団 体 名	公開講座のテーマ	助成額
（社）日本糖尿病協会沖縄県支部	生活習慣病としての糖尿病	10万円
琉球大学医学部泌尿器科学講座	更年期の泌尿器科ー尿がもれる、尿の勢が悪い、トイレが間に合わないそのすべてを解説ー	10万円
琉球大学医学部保健学科地域看護学講座	生活実践から育む！沖縄の健康長寿	10万円

平成16年度

団 体 名	公開講座のテーマ	助成額
（社）日本糖尿病協会沖縄県支部	軽症糖尿病ー予防と治療ー	20万円
琉球大学医学部泌尿器科学講座	更年期の泌尿器科ーここが知りたい泌尿器科の話ー	20万円
琉球大学医学部保健学科基礎看護学講座	島んちゅの心ーがんばれ、がんばる尿失禁対策ー	20万円

平成17年度

団 体 名	公開講座のテーマ	助成額
第42回日本ウイルス学会九州支部総会	第42回日本ウイルス学会九州支部総会市民公開講座	20万円
琉球大学医学部高次機能医科学講座 顎顔面口腔機能再建学分野	沖縄県におけるHIV/AIDS感染の現状と一般開業歯科医の役割	20万円
（社）日本糖尿病協会沖縄県支部	糖尿病ー治療継続の重要性ー	10万円
琉球大学医学部泌尿器科学講座	ここが知りたい泌尿器科更年期の泌尿器科	10万円

平成18年度

団 体 名	公開講座のテーマ	助成額
日本病態生理学会	生活習慣病の予防－小児期からの対策－	20万円
琉球大学医学部泌尿器科学分野	ここが知りたい更年期の泌尿器科	20万円
琉球大学医学部保健学科	在宅ケアに役立つ感染看護	10万円
琉球大学医学部整形外科	スポーツ障害の予防と治療	10万円

平成19年度

団 体 名	公開講座のテーマ	助成額
(社) 日本糖尿病協会沖縄県支部	沖縄の長寿と糖尿病について	20万円
琉球大学医学部高次機能医科学講座 顎顔面口腔機能再建学分野	口腔ケアについて考える？－それぞれの状態の口腔ケア－	20万円
琉球大学医学部泌尿器科学分野	ここが知りたい更年期の泌尿器科	20万円

平成20年度

団 体 名	公開講座のテーマ	助成額
琉球大学医学部高次機能医科学講座 顎顔面口腔機能再建学分野	健康長寿県への復活を目指して －口腔ケアからの挑戦－	20万円
特定非営利活動法人 沖縄県難聴福祉を考える会	老人性難聴の予防と早期発見・早期対応の具体策について	20万円
(社) 日本糖尿病協会沖縄県支部	沖縄の肥満と糖尿病増加対策	10万円

平成21年度

団 体 名	公開講座のテーマ	助成額
琉球大学医学部高次機能医科学講座 顎顔面口腔機能再建学分野	障害者歯科治療への理解を深める市民公開講座	20万円
(社) 日本糖尿病協会沖縄県支部	沖縄では糖尿病が増加－沖縄糖尿病の早期発見と早期治療	20万円
(社) 北部地区医師会	「心臓大血管手術の最先端治療」～北部地域循環器系医療支援施設に向けて～	10万円
(社) 日本耳鼻咽喉科学会沖縄県地方分会	「鼻の日」講演会	10万円

平成22年度

団 体 名	公開講座のテーマ	助成額
(社) 日本糖尿病協会沖縄県支部	全国糖尿病週間講演会	10万円
琉球大学大学院医学研究科 顎顔面口腔機能再建学分野	口腔ケアによる健康長寿県への挑戦	10万円
沖縄県臨床皮膚科医会沖縄皮膚科勉強会	こどもに多い皮膚感染症	5万円
琉球大学医学部保健学科	大学院進学を希望する看護職(社会人)のための英語論文講読講座	5万円

平成23年度

団 体 名	公開講座のテーマ	助成額
日本脳卒中協会沖縄県支部	「脳卒中一決め手は予防と“もしや“の受診」 「脳卒中一頭を切らない？最新の脳外科治療」	10万円
特定非営利活動法人 沖縄県難聴福祉を考える会	老人性難聴の予防と早期発見・早期対応の具体策について	10万円
沖縄戦・精神保健研究会	沖縄戦と精神保健	5万円
日本人類学会	島一離島の生態をめぐって	5万円

平成24年度

団 体 名	公開講座のテーマ	助成額
沖縄県立八重山病院	コンビニ受診を考える～こんな時どうしたらいいの？正しい救急の利用法について～	10万円
沖縄県臨床皮膚科医会・日本皮膚科学会 沖縄地方会	皮膚のアレルギー	10万円
琉球大学大学院医学研究科顎顔面口腔機能 再建学講座	新しい癌治療のかたちー陽子線治療の理解のための市民公開講座ー	5万円
琉球大学医学部整形外科	「運動器の10年」世界運動市民セミナー『ロコモティブシンドロームと骨折』	5万円

平成25年度

団 体 名	公開講座のテーマ	助成額
沖縄県糖尿病協会	沖縄の肥満と糖尿病増加対策	10万円
琉球大学医学部保健学科成人看護学Ⅰ分野	もっと知ってほしい！子宮頸がん予防のこと	10万円

平成26年度

団 体 名	公開講座のテーマ	助成額
沖縄県高齢者ケア研究会	地域の有利性を生かした地域づくりー高齢者ケアのヒント探しー	5万円
日本筋ジストロフィー協会沖縄県支部	市民公開講座①沖縄①筋ジストロフィー治療研究の進歩②ここまで進んでいます筋ジストロフィーの医療	5万円

平成27年度

団 体 名	公開講座のテーマ	助成額
沖縄県糖尿病協会	糖尿病に関する知識や予防対策・治療法	5万円
一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会 沖縄県地方部会	「鼻の日」講演会	5万円

平成28年度

団 体 名	公開講座のテーマ	助成額
沖縄県立南部医療センター・こども医療センター	みんなに知ってほしい！こどもからおとなまでの腹腔鏡下手術	5万円
特定非営利活動法人 沖縄県難聴福祉を考える会	老人性難聴の予防と早期発見・早期対応の具体策について	5万円

平成29年度

団 体 名	公開講座のテーマ	助成額
琉球大学医学部整形外科	「運動器の10年」 骨と関節の日 市民セミナー	5万円
SOLA沖縄保健医療工学院	健康器具の安全なとり扱い方と健康管理	5万円

平成30年度

団 体 名	公開講座のテーマ	助成額
第29回日本臨床寄生虫学会大会	沖縄県のダニおよびダニが媒介する感染症	5万円
一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会 沖縄県地方部会	市民公開講座 耳の日講演会	5万円

平成31年度

団 体 名	公開講座のテーマ	助成額
社会医療法人友愛会 豊見城中央病院	第9回腎移植フォーラム～いのちの贈り物～きつとあなたもスーパーヒーロー～移植医療が命を救う～	5万円
第72回日本薬理学会西南部会	なかなか聞けない大事な話～排尿の悩みの解決法～	5万円

令和2年度

団 体 名	公開講座のテーマ	助成額
琉球大学病院がんセンター	がん医療における正しい情報を得るには	5万円

令和3年度

団 体 名	公開講座のテーマ	助成額
一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会 沖縄県地方部会	「頭頸部がん」についての公開講座	5万円

令和4年度

団 体 名	公開講座のテーマ	助成額
日本脳神経外科学会九州支部 第30回市民公開講座	脳卒中、脳腫瘍、認知症を理解し、予防するために	5万円

令和5年度

団 体 名	公開講座のテーマ	助成額
第129回日本解剖学会総会・全国学術集会	沖縄県における人類学研究の最前線	5万円